

博士後期課程（博士）

1. 単位修得要領、授業時間割

修了に必要な単位数： 工学研究科要覧を参照のこと（p34、p37、p111）。

- 1) 講義科目（特論） 6単位を修得すること。内、2単位は他専攻の講義科目で振替え可
※ 履修届（マークシート）を期日までに学務係に提出すること。

平成21年度開講の講義科目（予定）：集中講義（日程は後日連絡する）

（前期）量子デバイス特論（保坂教授）

計算機工学特論（魏教授）

（後期）高分子微細構造特論（黒田教授）

?特論（櫻井教授）

- 2) 特別実験 1～3年までに合計6単位

- 3) 特別実習 派遣型インターンシップを博士仮論文の提出以前に修了していること。

他機関（企業、研究所、大学等）でテーマを決めて行なう実習。

期間は1～2ヶ月程度（夏期または冬期休暇中等）

予め指導教員に申し出て正規の手続をとること。

必要書類は学務係大学院窓口で受け取ること。

実習終了後は速やかに報告書を大学院窓口提出すること。

特別実習免除規定（正規の免除願を大学院窓口提出すること）

免除対象者 社会人特別選抜入学者

大学院在学中に留学した者

外国人留学生

上記に準ずる者

- 4) 特別演習（領域間交流ゼミを含む）

領域間交流ゼミ（必須、社会人の場合**選択**）

- 原則として、研究テーマ以外の関連分野の文献調査等を行い、この分野における新たな研究課題を提案し、この研究の進め方、問題解決のための研究方針、さらに得られると考えられる成果と意義について発表する。

@ 「一社一博士」の博士後期課程における「ケーススタディ」を「領域間交流ゼミ」として課す。その実施について、指導教員チームに大学教員に加えて企業経営者をアドバイザーとして加え、多角的な視野を持って研究を遂行できるように学生を教育することを目的とし、商品開発に関する「ケーススタディ」を行う。

- 発表は公聴会形式で行う。

☆発表時間30～40分、質疑応答20～30分（計約1時間）

☆A4用紙3～4枚に要旨を作成し、発表の3日前までに大学院教務委員（現在、魏書剛）に提出する。発表当日は、必要と思われる部数の要旨を用意して参加者に配布する。

☆質疑応答に参加する審査教員3名を指名する。

☆合否判定は指導教員、審査教員（3名）、大学院教務委員、専攻長の合議により行なう。

○課題は本人が指導教員と相談して決定する。

○発表会は原則として年2回開催する。

○不合格者は訂正した上で再度発表する。

2. 学位認定プロセス

1) 学位論文提出資格

○規定の修業年限以上在学していること。修業年限が短縮されることもある。

○所定の単位を取得しており、特別実習及び領域間交流ゼミを終了していること。

○研究成果が所定の基準に達していること。

☆博士論文公聴会までに所定の学術論文（関連論文という）少なくとも2編以上が公表されているか、掲載が決定されていること。内1編は英文論文であること。

☆関連論文数は2編以上が好ましいが、内1編は国際会議等の発表も可とし、国際会議は関連論文として記載しない。

☆英文論文または国際会議発表をもって、外国語試験を免除する。

☆関連論文の第1著者あるいは第2著者であること。

2) 学位論文審査

☆3月修了予定者のスケジュールは以下の通りである。6、9、12月修了予定者は、指導教員と相談して、時期を適宜ずらして準備すること。

☆3月修了予定者のスケジュール：

- | | |
|---------|--|
| 1 1月までに | 特別実習、領域間交流ゼミを修了していること。 |
| 1 1月中旬 | 主査、副査に仮論文、要旨（A4用紙6ページ程度）を提出。
副査は4名（内1名は学外の人でもよいが、審査資格を有する方）
予備審査会の日程は主査が副査と相談して決定する。 |
| 1 2月中旬 | 予備審査会（発表約40分、質疑約20分、計60～70分）
審査終了後、主査、副査で論文提出の可否を決定する。 |
| 1 2月下旬 | 専任教授会で論文提出の可否を決定する。 |
| 翌年1月4日 | この日までに申請書類「学位論文請求届」を学務係に提出 |
| 1 月上旬 | 主査、副査に本論文提出 |
| 1 月中旬 | 論文公聴会（発表約40分、質疑約20分、計60～70分）
最終試験（公聴会終了後、主査、副査による面接諮問） |
| 2 月上旬 | 専任教授会で最終決定 |
| 3 月 | 大学院教務委員会、大学院教授会で最終決定 |
| 3 月下旬 | 学位記授与 |

問い合わせ：魏 書剛 (wei@cs.gunma-u.ac.jp、内線電話 1824)

以上